横田基地 C-130Jシミュレーター開設

Yokota receives a C-130J WST simulator

July 29, 2020

By Yasuo Osakabe
374th Airlift Wing Public Affairs

２年の歳月をかけて建設された、ケーブル付きの大きな白い箱のようなものは、横田基地に開設されたフル機能のC-130Jスーパーハーキュリーズ兵器システム訓練（WST)シミュレーターだ。

「（建設に）長い期間を要したが、我々の訓練能力向上に非常に大きな意味を持つ瞬間だ」と第374運用支援中隊司令ドナバン・ラスキー中佐は、7月27日、新設C-130JWSTシミュレーターのリボンカット式典で述べた。

太平洋空軍で唯一の戦術空輸中隊が置かれている横田基地は、2017年にC-130Hハーキュリーズから C-130Jスーパーハーキュリーズへの移行を開始した。そのH型からJ型への移行計画には、C-130JWSTシミュレーターの導入も含まれていた。同シミュレーターは、フルモーションのコックピット・フライト・シミュレーターで、乗員が通常航空機内で行われるのと同じ訓練を達成するための完全な認定を受けている。

「シミュレーターは主に、航空機の緊急時の手順や乗員やコックピットのリソース管理（CRM)に焦点を当てた年に一度の再教育訓練を行うために使用される」と、第36空輸中隊副運用部長クリストファー・ウォルフ少佐は説明した。

シミュレーターは、安全な環境で実世界のさまざまなシナリオを乗員に提供する一方で、パイロット、ロードマスター、整備士が戦術的な空輸任務の練度を維持するためにかかる予算がより抑えられる。

「シミュレーターは、必要な訓練を横田で実施することで、第374運用群の人件費と出張費を年間約45万ドル節約できる。本質的にC-130JWSTシミュレーターとC-130Jスーパーハーキュリーズは同等だが、コスト削減と安全性が向上する」とウォルフ少佐は述べた。

新たに運用可能になったシミュレーターのもう一つの利点は、どんな飛行環境やシナリオも再現できることだ。

「シミュレーターの他の利点は、必要な訓練を行うために、場所、天候、時間帯を無制限に変えることで、C-130Jのほぼ全ての運用環境を再現できることだ。パイロット、ロードマスター、整備士は、アラスカの雪の降る環境でも、アフガニスタンの暑さの中でも、季節を問わず、横田を離れることなく、計器の手順を練習することができる」とウォルフ少佐は述べた。

C-130JWSTを横田の将来の投資としているのは、まさにそのような訓練の柔軟性にある。

「この施設は年間150～200人のパイロット、ロードマスター、整備士の訓練を行うために使われる。高度な能力を有するシミュレーターは、乗員の安全性、チームの熟練度、そしてインド太平洋地域のニーズに応える準備を整えるために極めて重要だ」と第374空輸航空団司令官アンドリュー・キャンベル大佐は述べた。